

2025 年度業務実績報告書

提出日

2026 年 1 月 6 日

1. 職名・氏名 助教・竹内 智子

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学、
授与年 2017 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 地域包括支援論（3 年次 1 単位）、地域包括支援実習（3 年次 2 単位）、地域・在宅看護学（2 年次 2 単位）、地域・在宅看護学演習（3 年次 2 単位）、看護マネジメント実習（4 年次 2 単位）、卒業研究（4 年次 3 単位） ②内容・ねらい 【包括支援論】生活と環境の関係性と、地域で生活する多様な生活者やその生活実態を理解し、地域包括支援の必要性を学ぶ。また、生活者が望む生活の実現に向けた入退院支援や、生活を支える社会保障制度、自治体施策に基づく地域資源、多機関・多職種の専門性、役割と機能、連携の技術等を学習する。 【包括支援実習】臨地実習をととして、地域で生活する対象者とその家族の課題を理解する。また、自立した療養生活の実現に向けた入退院支援の実際や生活を支える多機関・多職種の連携・協働の実際を学び、地域包括支援における看護師の役割を考える。 【在宅看護学・演習】 自宅やそれに準じた環境で生活を営む療養者及び家族に対して看護の提供ができるよう、在宅看護展開に必要な知識や、実践的な看護技術について学習する。 ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・講義においては、自身の専門領域である重症心身障害児、医療的ケア児の地域生活支援、看護技術に関する知識を教授した。事例や動画を用い、学生が対象の生活をイメージしやすいように工夫した。 ・演習では、地域包括支援を身近に考えることができるように、「福井」をキーワードにしたワークショップを実施した。また、学生自身が問題意識を持つことができるような学習環境を提供し、修得レベルに応じて個別指導を実施した。 ・実習では、対象者の個別性に基づいたアセスメントや支援方法を指導した。学生の特性を考慮した適切な指導を行った。
(2)その他の教育活動
卒業研究では、1 名の学生の指導を行った。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり） 題目：超重症心身障がい者の日常生活ケア——看護と福祉の協働に関するエスノグラフィ（研究ノート）『日本保健医療行動科学会雑誌』，第 40 巻 1 号，pp.88-96，2025 著者：竹内智子・道信良子	【1 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等 題目：超重症心身障がい者のケアにおける多職種協働エスノグラフィーによる現場研究 発表学会：第 59 回日本文化人類学会学術大会(2025 年 6 月 7 日) 分科会演題(口頭発表)	【 1 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

- ・NPO 法人ふくいこどもホスピス 家族会開催（開催場所：新町ハウス）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- ・実習検討委員会

(3)学内行事への参加

- ・入試説明会（丹生高校）
- ・開放講義（鯖江高校）

(4)その他、自発的活動など

- ・重症心身障害児者の支援（NPO 法人はあもにい永平寺）：ボランティア活動
- ・NPO 法人ふくいこどもホスピスの運営